

令和5年3月30日

学校法人つくし野学園令和4年度学校評価

白百合幼稚園
園長 藤原伸介

§1 白百合幼稚園教育目標

『 私たちは 神さまの子ども 兄弟姉妹です。

いのちを大切に ゆるしあえる人になりましょう。 』

§2 はじめに

今年度の学校評価は、令和3年度の『学校評価』に引き続き、白百合幼稚園の新カリキュラムを軸に構成する。

尚、この文書を作成するにあたって使用した資料は以下の通りである。

- 令和5年3月に本務教員で実施した「令和4年度振り返り会議」議事録
- 令和4年度「保護者教育アンケート」集計結果 別紙参照
- 令和4年度「職員個別学校評価アンケート」集計結果

§3 令和4年度のカリキュラム

新カリキュラムの導入により「教育内容の同学年・異クラス間格差が生じにくくなる」、「教員のキャリア間格差をある程度埋めることができる」などの効果を期待したが、「保護者教育アンケート」や「職員個別学校評価アンケート」の結果をみると、その効果が表れてきていることが読み取れる。

カリキュラムに沿って教員間の話し合いに基づくチーム教育が機能するようになり、結果として保護者の幼稚園への信頼感がより強いものになっていく。こうした相乗効果があったことが保護者アンケートから読み取ることができる。

一方、教職員の側もカリキュラムに則り、チームで活動することでキャリアの浅い教員も揺らぐことなく日々の活動に専念できるようになり、それが自信にもつながってきているように見える。教職員アンケートの質問項目に「子どもとの信頼関係の確保に努めているか」という問いがあるが、これに対して全ての教員が満点の評価を下しているところにそれを読み取ることができる。

§4 白百合幼稚園カリキュラム～今後の課題

そもそも『カリキュラム』は、その学校が行う教育活動の最終達成目標に至るまでの道筋を示すものである。ということは、カリキュラムを教員間で共有するということは、その学校がどういう子どもを育てようとしているのかということをも全教員が同じ言語で表現することができるということにつながる。

これは私学にとって大きな強みである。

現在、『新カリキュラム』の運用は少しずつ軌道に乗り始めている段階なので、今後も“振り返り”と“検討”を繰り返しながらより精度の高いカリキュラムとして進化させていくことが大事になる。そしてさらに一人ひとりの教員がそのカリキュラムを自分のものとして使いこなせるようになることが望まれる。

§5 カリキュラム以外の観点からの学校評価

ここまで、新カリキュラムを軸に筆を進めてきたが、最後にカリキュラムから離れて、白百合幼稚園の教育創りの課題を3点挙げておきたいと思う。

(1)「神さまの愛を身近に感じることができるように」

別紙保護者対象の「幼稚園教育アンケート」の集計結果の抜粋をご覧いただきたい。実は「幼稚園教育を通して神様の愛を身近に感じていると思いますか」の問いの得点が85点になっている。

100点満点の85点なので決して低い評価ではないが、他との相対的比較でみると、カトリック幼稚園を標榜する本園としては看過できない結果である。

令和5年度の活動の中で、この結果を踏まえ活動に工夫を加え、園全体で改善を図るということで職員間の意見が一致した。(預かりに関する設問も90点未満だが、預かりをつかっていない人は回答

できないものなので点数表示が低く出ている。)

(2)「モンテッソーリ教育の質の向上」

白百合幼稚園を志望する保護者の志望動機は「モンテッソーリ教育を取り入れている幼稚園」が常に第1番である。ということは、園児募集対策の一環からしても、モンテッソーリ教育の質の向上ということを常に意識していなければならない。

そこで令和5年度の白百合幼稚園スローガンを『バランスの取れた“モンテッソーリ教育と集合保育の融合”』と定め、5年度から、モンテッソーリ教育指導者資格を取得するための教員講座(2年間)に本務教員を毎年1名派遣することにした。

(3) 外部講師の活用

現在白百合幼稚園では正課の活動の中に「体操指導」と「英語指導」の時間を設け、この時間については外部より専門講師を招聘し、委託業者が作成するそれぞれのカリキュラムに則り指導を受けている。

体操指導については年を追って在園児の体操に対する取り組み姿勢が前向きになり、保護者からの評価も高い。また同社が本園で主催する課外体操教室への保護者の評価も高く、正課の体操指導と併せて本園の『体育』の質的向上が実感できている。

一方、英語指導については、令和4年度よりカリキュラム変更を行い「外国人講師の存在が身近になった」「子どもたちと講師の先生の接点がこれまでより増えた」などの評価があった。

今後も委託会社とも協力しながら更なる質的向上を図りたい。

§6 学校関係者評価委員会の評価

観点	学校関係者評価委員会評価
園自己評価は適切になされているか	適切になされている。
今後取り組むべき課題は適正に設定されているか	適正に設定されている。
その他	<ul style="list-style-type: none">・取り組みに対する評価がしっかりとされているので、どの部分を高めていくべきか方向性が見えている。・カトリック・モンテッソーリ・他園で経験できないことを幼稚園の特徴として広く知られるよう大切に、永く続けてほしい。・教会という聖なる場所、心静かに神さまに祈る場所と、楽しい生活の場の両方を体験できる貴重な場であることを活かしてほしい。・小さいころから英語・体操など、幼稚園で学べることは貴重であり、親としてもありがたい。幼稚園の良い点としてPRされるとよい。

＝付記＝

本園では毎年年度末に「卒園アンケート」として年長児保護者に「卒園にあたっての所感」を記述式で書いていただいている。今年度の記述を読むと今年も「白百合幼稚園のよさは昔からちっとも変わっていないことが、親として一番うれしかった」という記述がたくさんあった。

白百合幼稚園は今、カリキュラムを再構築しそれに則った教育活動を展開している。さらにモンテッソーリ教育の質の向上にも取り組んでいる。そういう意味では幼稚園の中に新しい風が吹いているようにも受け止められるだろうが、白百合幼稚園の根幹はこれからも、「卒園アンケートの」に記載があったようにいつの時代になっても変わることはない。白百合幼稚園の根幹を守りつつ、教育の中身をその時代にあったものに進化させていく。これが白百合幼稚園の今の姿である。